

留学生600人超す

北九州学術研究都市



緑あふれる広大な北九州学術研究都市

北九州市若松区ひびきのに素晴らしいキャンパスが広がっている。北九州学術研究都市(学研都市)だ。

学生を対象にした「エントリシート・履歴書の作成」という講座が開かれた。13人の留学生が参加。ほとんどが中国出身。日本語での講座は、留学生が書いた履歴書をサンプルに、住所や学歴、資格、卒論、志望動機、自己PRなどの書き方を学ぶ。

学研都市の運営にあたる中核機関、北九州産業学術推進機構(FATS)の留学生支援オフィスが実施している「就活支援セミナー」の一コマ。みんな真剣な表情だ。

月の学研都市スタート時、わずか31人だった留学生は、今や、610人、28カ国・地域(11月1日現在)が在籍。過去最多で、キャンパス内で学ぶ学生の約4分の1を占めている。出身は中国が475人と圧倒的に多く、インドネシア25人、インド19人、台湾17人、ベトナム15人、マレーシアとタイが12人と続く。卒業生は累計1840人にのぼる。

就活セミナーの講師、張敬清(ちやうけいせい)さんは「何をやりたいのか、また、自分の顔がしっかり伝わるエントリシートの書き方などを具体的に教えています。日本の企業は全人格的な情報を履歴書に求めていますから」と話す。日本在住15年、自身も北九州市立大学に留学、就職して人事を担当した経験者。

サンプルにある「志望動機」や「自己PR」の文章を声に出して読ませて、長所や欠点をチェックして認識させ、「繰り返し書いて、面接でも1〜3分で話せるように準備すること」「名前は大きく書く」「志望動機は履歴書の中で最も重要視される」など、講義は実践的だ。

中国から留学、キャンパスの早稲田大学院で学ぶ庄舒瑜(しゅうしゅゆう)さんは「講座では履歴書の書き方はかなりでなく企業見学も体験できていい勉強になります」と目を輝かせていた。

アジアに開かれた研究拠点

学研都市が掲げる「アジアに開かれた学術研究拠点」の活動のなかで、留学生の受け入れが着々と成果をあげている。

2001年4

留学生をバックアップ

留学生支援オフィスは、日本語を学ぶ語学教育センターも運営。大学院で学ぶ留学生を対象の奨学金制度もある。昨年度から企業の寄付金による冠奨学金制度もスタートした。

【北九州学術研究都市】北九州市立大学国際環境工学部と同大学院の研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科など理工系の1学部4大学院、研究機関15、進出企業42社(いずれも11月1日現在)があり、留学生を含む約2,400人の学生が学んでいる。研究開発や成果の特許化、事業化支援なども行われ、進出企業のうち16社は学研都市発のベンチャー企業。



履歴書の書き方を熱心に学ぶ留学生たち。12日、学術研究都市の産学連携センター研修室で